

第1回岐阜県都市公園活性化懇談会 議事要旨

日時：平成28年1月13日（水）10時～12時
場所：岐阜県庁 4階 特別会議室

1 知事あいさつ

- ・ここ数年来、岐阜の魅力発信ということで、あらゆる分野で岐阜の地域資源を発掘し、発信している中、都市公園のポテンシャルは大変高く、大切にすべきである。
- ・近年の外国人観光客の急増、企業立地の全国トップレベルでの推移、清流の国ぎふブランドづくりの中で、都市公園をどう考えていくか。
- ・ポテンシャルを高く評価する一方、世界淡水魚園を除く3公園は、過去5年で来園者が40万人減少しており、テコ入れが必要と感じている。
- ・「花フェスタ2015ぎふ」では、趣向を凝らし、テーマを「花と食」に集中して展開した結果、41万人が来場。「関ヶ原」も、「変わる関ヶ原」と銘打ち、イベントを開催したところ、2週間で7万人の集客を達成した。
- ・都市公園の持つポテンシャルと公園を取り巻く動きの中で、色々と磨きを掛け工夫していけば、都市公園を中心に、ひとつの回廊として岐阜県全体を包んでいけるような魅力発信ができるのではないか。
- ・回廊化のコアとして、各都市公園をどのように活性化し、繋いでいくか。観光政策や産業政策、インフラ政策を含め、組み合わせながら検討していく。
- ・方向性をできるだけ早く出して、やれるところからどんどん手を付けていきたい。

2 座長選任

- ・各委員の互選により、座長が選出される。

3 事務局説明

○県

- ・資料に基づき、岐阜県営都市公園を取り巻く現状について説明

4 意見交換

○委員

- ・国では都市公園のあり方検討会というのを進めており、国にとっても岐阜県の今回の取組みは非常に参考となり、全国的な公園緑地行政にもつなげていきたいと考えている。

○委員

- ・花フェスタ記念公園は、バラの季節は来園者が多いが、それ以外の時期は少ないということで、バラを一番のメインに置きつつ、その他、花の聖地といえるほど、夏でも秋でも季節感のある色々な花を見せるエリアを造ったり、あるいは歌や踊りといった県民発表のステージとすることで、季節を問わず来場者を呼ぶことができるのではないか。

○委員

- ・東海環状自動車道全通は2020年を目標にしており、リニア中央新幹線は2027年に開業するということを含め、西回りのルート沿いに都市公園が集積しているので、これらの「点」をいかに有効に結ぶかということに取り組んでいくべきである。
- ・それぞれに非常に優れたコンセプトがあるので、どうブラッシュアップしていくか考えていくべきであろうと思う。

○委員

- ・平成記念公園は、立地条件としては非常に良いが、2回目、3回目のリピーターがいないというのが、課題になってくる。
- ・今後、都市公園におけるストック効果や民間との連携という観点から、地元も公園が栄えて公園に人が来ることで、自分たちの地域を多くの人に知ってもらえるということをもっと意識しなければならない。
- ・岐阜県の良さとして「森林」がひとつあり、「里山」というのはひとつの切り口になるのではないかな。
- ・平成記念公園は、美濃加茂市だけでなく、地域全体を知っていただく場として、2回目、3回目は公園の周りを巡ろうという仕掛けを作っていくべきである。

○委員

- ・養老公園は、滞留ができないということが一番大きい問題だと考えている。
- ・養老天命反転地、子どもの国、養老の滝、キャンプセンター、テニスコートにゴルフコースと様々あり、公園そのもののコンセプトや何を特化した公園であるのかということも問題である。
- ・来年、養老改元1300年祭の開催を予定している機会を捉えるとともに、養老鉄道と公園をうまくつなぎ合わせたい。
- ・関ヶ原古戦場の整備を県として進めているが、西濃地域として結び付けていければと思う。

○委員

- ・世界淡水魚園は年間450万人の来場者があり、東海地方でも有力な集客がある誇るべき施設である。
- ・東海北陸自動車道に隣接した公園であり、南の玄関口という位置にあることから、各務原市では観光拠点というだけでなく情報発信拠点という意味合いを持って利用している。
- ・懸案材料としては、東海環状自動車道西回りルートが開通することで、ルート変更により利用者が減少するのではないかなということがある。
- ・しかし、県とともに、「かかみがはら航空宇宙科学博物館」のリニューアルを目指しているところであり、オアシスパークをはじめとして、エーザイの「くすりの博物館」もあり、一日周遊できる仕組みを検討していきたい。

○委員

- ・花フェスタ記念公園は可児市民が愛している、大好きな公園である。
- ・周辺地域ではピーク時には大勢の来園者があり混雑するが沢山来るのは嬉しいということで、市民に非常に大切にされている公園である。
- ・バラをメインにししながら例えば桜や紅葉というそれぞれの季節の花に加えて、新しい花の品種の発表のイベントなどをより大々的に行えば人を呼べるのではないかなと思う。
- ・可能性は大きいので、是非、本懇談会でのアイデアを中心として、少しずつでも実現していきたい。
- ・可児市には、花フェスタ記念公園を中心として色々な観光施設があり、まだまだ磨きを掛けている途

中であるので、今後とも大いに展開していきたい。

○委員

- ・公園の使い方の柔軟な発想と企画をして、時代の要請に合わせていく必要があるのではないかな。
- ・民間との連携という部分では、大手との連携も大事だが、地域に裾野を広げる意味で、地域との密接な工夫、連携をしていただくと有り難い。
- ・民間に裾野を広げていって、可児市のように地域が愛せるような公園になれば非常に効果が高まるのではないかな。

○委員

- ・子育て中のお母さんが昼間過ごす一番の場所は、数年前から、公園や児童館からショッピングモールに変わってきている。
- ・それは、全天候型というのが大きな理由だが、逆の発想で雨を楽しめるような公園のイベントは無いものかと考えている。
- ・伝える手段も日々変わっており、以前は紙媒体であったが、子育て世代にとっては、やはりSNSである。
- ・公園としても伝える手段を色々考えた方が良いのではないかな。

○委員

- ・今まで公園に来た方たちはどこから来ていたのか、これからはどこから呼び寄せるのかというのが大事な視点ではないかな。
- ・道路網整備が進むことで人の流れが変わると、それをどう呼び込むかというのは、民間の競合施設との関係性を落とし込んでいかなければ、現実の問題として戦略的なものは打ち出せない。
- ・養老について言えば、関ヶ原との連携では、どこから人を呼んでくるかということで、関ヶ原を含めて歴史的な物語性を出していく必要があるだろうと思う。
- ・また、休憩飲食が十分保証されているか、雨宿りスペースがあるかということが大前提になるだろうと思う。

○委員

- ・商業の役割がすごく重要であるが、各公園を一通り見たところ、いずれも商業が不十分である。
- ・どうやったら売れるか、人が集まるかというのは商業的には法則があって、それに則っていないと中々売れないというところがあるので、見直しをした方が良いと思う。
- ・事業者が管理人となった時点で駄目であり、公園は枠で括った商業施設と捉えて、事業者になっていかなければならない。
- ・園内のスタッフも店員と同じであり、それだけの努力を払わなければ、到底満足していただけない。
- ・ショッピングモールにお母さん方が集まっているという話があったが、商業を専門にしている側は、当然、公園から人を呼ぼうとしていて、公園の何が優れていて、商業にそれを導入すれば人が来る、ということを理解している。

○委員

- ・利用実態調査やアンケートが語っているように、公園ごとにまるで状況は異なる。
- ・事実をベースにものを考えていかないと、印象が合うところと合わないところがある。

- ・都市公園は何でもできるが、あらゆる要望に応じていくと何でも実施して何の面白みもなくなってしまうというのが、今までの一番の反省点であり、良いところを伸ばす方向にしないと発信力はない。
- ・もうひとつは、観光など広域的に動こうとすると、公園だけでやる必要はない。
- ・公園だけではなく、歴史や文化など世界的に発信できるような資産とどう連携していくのか、そのためにはどういう機能を活かしていくか、という順番で発想していくことが必要である。
- ・都市公園は何でもできるが、何でもやるのではなく、いいところを伸ばす方向で取り組むことが必要である。
- ・公園という広大な公共不動産をどう活用していくのか、県として、どのユーザーを欲しいのかを整理することも必要。

○座長

- ・県だけではなく、地元の市町や民間と一体になって公園のストック資産を活用しながら、公園が岐阜県の将来像にどう貢献するのかという戦略的役割を仮説しながら、公園の未来像を議論すべきである。

○知事

- ・4つの公園にとりあえず絞って、ひとつひとつの公園の課題やコンセプトなど、来園者の実情なども踏まえた個々の公園の検証を、より丁寧に、きめ細かくやっていく必要がある。
- ・一方で、同時に広いところから、どうつないでいくかというあたりで、縦横、歴史軸、時間軸などいろいろな軸で広いところからの検証をしなければならない。
- ・さらに、戦略作りにおける連携で、民間施設、市町村、地域住民、NPOあるいは産業界との連携のなかでの集客の手立てをどう組み立てていくか。
- ・県立公園という公共ストックを商業施設にするというのはひとつの選択肢であるが、それとは違う方向を目指さないと、競争にならないのではないか。
- ・他方で誘客にはお土産や飲食は不可欠であり、商業化の流れと公共施設であるということとの折り合いをどうつけながら、どこを目指すのか、ということも論点である。

○委員

- ・そもそも、公園は何をしに行くところかと考えたときに、趣味が多様化しているなかで、癒されに行く、楽しみに行く、といったことがある。
- ・子どもの頃に慣れ親しんだところは、懐かしさを求めに行ってしまう傾向があるように思う。
- ・そういう意味では、子どもたちの教育、親子で学べる場にしてはどうか。
- ・春夏秋冬、学校として子どもたちが学べる場として公園を利用できるようにすると、子どもの頃から地域の公園に親しむ、地域に誇りを持つようになる。

○委員

- ・エコや清流をテーマとしている岐阜県の立ち位置、心を豊かにするものづくり、こうしたものを伝えられる公園であることが必要。
- ・海外で公園の名前を伝えるときに、公園の持っている特徴を表さなければ、伝わらない、行きたいと思ってもらえないので、将来像として、一言で表現できる公園になっていくのか、ということを実体的に考えていく必要がある。
- ・美味しいものを、素晴らしいお土産を開発しようということは各論なので、本気でやるのなら知恵を絞ってやればできるのではないか。

○委員

- ・花フェスタ記念公園に関わっているが、バラのコレクションが非常にあるということで、2003年には世界バラ会連合から優秀ガーデン賞を受賞するなど、植物園的な機能がかかなりあり、その魅力は植物であり花である。
- ・その魅力をどのように活かすかという点、観光教育、花育に生かしていけるので、半日ほど滞在して、子どもに植物を教える、見せるということを実施するべきである。
- ・そういうことで、花、植物に関心を持ってもらうことが花フェスタ記念公園の大きな特徴だと思う。

○座長

- ・地方では、道の駅はものすごく浸透していて、公園において、恒久的な商業施設でなくてもイベントとして、地域の息吹、流域の息吹なりをそこへ収めていく、同時にそこが対外的な発信力を持っていく可能性が十分ありうるのではないかと。

○委員

- ・ショッピングモールと公園が競合する点については、投資面で絶対に公園は勝てないので、公共では、民間事業ではペイできないような部分にある程度特化したものを担うこととなる。
- ・ひとつは、本物をどうやって作ってみせるか。過去の経験上、偽物を見るとリピーターにはなれない。本物の花があるから、本物の資産があるからもう一度見たい。そういうことが知的好奇心を満たす。
- ・また、来園者数は平日と休日、季節の落差が大きく、公園での商業は、初期投資にお金をかけた瞬間に成り立たないため、商売的にはあまり儲からないというのが構造的にある。
- ・何が一番良いかという点、休日など人が集まる時に初期投資を少なくした形で農林水産物や地域の歴史的な資産といった物品を扱うことで、成り立つものである。
- ・そうして、お金をあまりかけない投資形態で常にやり続けるということも、持久力をつけるということになるのではないかと。
- ・どういうものだったら商業的に魅力を付けられるか検討することも、どうやって公共の部分でリスクを減らせるかという視点において必要である。

○委員

- ・県営公園である限りは、しっかりした目的を持つべきであり、それは官の役割である。
- ・その上で、民の役割を明確にするべきである。
- ・継続的に何かできるということで商売が成り立ち、民間も参加できるので、そうして民間も参加しやすい仕組みを作ることが必要である。

○委員代理

- ・花フェスタ記念公園の東京での知名度は不十分であり、公共施設のPR、情報発信の仕方は、量が少なく、上手くないのではないかと感じている。
- ・4公園の情報発信のやり方、民との組み方などを検証する必要があるのでは。

○委員

- ・官ができることを際立たせていく、そこに民の良さ、経営的な戦略を入れていかなければならない。
- ・地域からの思いとしては、立地条件が良いという中で、地方創生を含めて、各地域それぞれの特産品

の販売の場として、公園が開放されると良い。

・その声掛けは地方自治体が、市民の皆さんとやっていくことができる面白いのではないかと思います。

○委員

- ・公園のきめ細かな管理は、市民の協力が必要である。
- ・地域の人に愛されているということは大事で、口コミであったり、リピーターになっていただくことが、長い目でみていくと非常に大事である。
- ・市民、ボランティアによって公園が支えられる形態というのも、いつも考えておく必要がある。

○委員

- ・花フェスタ記念公園は、昼間だけではなく夜が大事である。
- ・愛知や九州など他の施設でも伸びているところは夜を活用しているので、夜型の生活スタイルとなっている若者に来てもらう工夫が必要なのでは。
- ・公園に行けば岐阜の産物が揃っていて、土産物にできるというのも大切である。

5 まとめ

○座長

- ・個々の公園の課題を整理して、個々の魅力を向上させるための手立てとしてどういう方策をとるのか、併せて、それぞれが競合するような関係ではなく、機能補完をしながら、公園の戦略的回廊を形成していくのか、ということが非常に重要である。
- ・その回廊形成にあたっては、交通条件、人口減、高齢社会といった国土像の転換というものなかで、岐阜がどういう方向を示すのかを視野におきながら、公園が果たすべき機能を検討していくこと。
- ・県営公園がプラットフォームになり、民間活力や市民など多様な参加をどのようなシステムで呼び込んでいくのか、併せて夜間運営などの柔軟な運営について検討していくこと。
- ・そして、あらゆる戦略性と情報発信が不足しており、情報発信の仕組みを考えながら、相互の公園の魅力を醸成して、地域資源の発掘の大きな機会としながら、地域振興に資する県営公園の方向を考えていく、ということにそれぞれの意見が集約されるのではないかと。
- ・こうした視点で、今後事務局において検討されたい。

○知事

- ・人口減少と言うが、岐阜県からの人口流出先は愛知県がほとんどであり、流出と考えるのか、一つのエリアとして補完的に交流しながら発展するのかという考えでは、見え方が違う。
- ・流域で岐阜県を考えると、流域の要に4つの公園がある。清流長良川はそのシンボルである。木曾川であっても揖斐川であってもいい。そういう意味での清流とその要にある公園というものを岐阜県としてどのようにして、内外にアピールしていくか。
- ・東西の交流の要、南北の交流の要、関ヶ原を中心に、あるいは中山道をアピールしていくことを中心に、横軸を強く意識し始めている。横軸を意識し始めると、なぜ関ヶ原が東西交流の接点なのか、天下分け目の戦いの関ヶ原ではなくて、出会いの関ヶ原として、どう出会ってどうなっていくのか、という観点で関ヶ原を膨らませ、県内だけではなく向こう側も含めた繋がりの中で、岐阜県の立ち位置というものを考えていく必要がある。